

## 第 3 回まちづくり市民会議の結果概要

### 1 日 時

平成 19 年 5 月 22 日 (火) 19:00 ~ 21:15

### 2 会 場

市役所 7 階大会議室

### 3 参加者

- ・委員 24 人 (欠席 15 人)
- ・事務局 (企画調整課長、外 9 名)
- ・千代田コンサルタント

### 4 会議概要

#### (1) 本日の進め方について (案)

事務局から本日の会議の進め方について提案、全会一致で了承

- ・前回会議での委員からの提案により、グループ協議を 6 グループで行うこと等について

#### (2) 第 2 回会議のまとめ

第 2 回会議の結果概要について報告、全会一致で了承

#### (3) グループ協議

鹿屋市の将来像について

今後鹿屋市が重点的に進める取り組みの大きな方向性について

グループ別協議結果 (各 3 ページ以降)

- ・市民生活グループ . . . . . 3 ページ
- ・健康福祉グループ . . . . . 5 ページ
- ・産業振興・都市基盤グループ . . . . . 7 ページ
- 両グループの出席者が少数であったため合同で協議
- ・教育グループ . . . . . 9 ページ
- ・市政全般グループ . . . . . 11 ページ

( 6 ) グループ毎の結果報告 ( 重点的に進める取り組みの方向性 )

市民生活グループ 発表者 丸野 委員

協働でまちづくりを進める意識の醸成

- ・地域コミュニティの育成
- ・リーダーの養成 ( 団塊世代のリーダー化 )

世代を越えた地域交流の促進

- ・地域イベントの活性化

健康福祉グループ 発表者 吉田 委員

ハードからソフトへ

- ・健康づくり ( 予防・予病 )
- ・高齢者障害者にやさしいまちづくり
- ・地域セーフティネットの充実 ( ボランティアポイント制度の導入等 )

産業振興グループ 発表者 青山 委員

第一次産業を生かす取り組み

- ・地元での二次加工
- ・地元での提供 ( 市民・観光客向け )

今あるものを生かす取り組み

都市基盤グループ 発表者 繁昌 委員

既存ストックの有効活用

箱モノありきから、真に必要なモノへの重点投資

ともに、市民と行政が知恵を出し合い進めることが重要

教育グループ 発表者 藤野 委員

家庭、地域における教育力の向上

道徳教育の充実

食育の充実

環境教育の充実

これらを鹿屋市独自の取り組み方策により行うことが大事である。

市政全般グループ 発表者 沼田 委員

安全 ( 安心・健康なまち )

行政 ( 公務員・議会 ) 等の意識改革

( 4 ) 次回まちづくり市民会議の日程調整

事務局から6月7日 ( 木 ) を提案、全会一致で了承

< 討論の内容 >

- ・ 市民と協働
- ・ 今まで市民も行政に頼っていた部分が多い。市民が自分のまちは自分で守るよう  
に立ち上げなければならない。

自分たちが住んでいるまちで発見（良いところ、悪いところ、行政に頼るとい  
う）自分たちでできることは自分たちでやっていくということ  
を、5年10年の計画の中で市民の認識を作っていかなければなら  
ない。

自分たちが汗を流して考えていく。

コミュニティ単位でリーダーが中心となってまちづくりを勉強して意  
識を高めていくことが必要

旧吾平町では、役場におまかせという部分が多かった。

- ・ 市民と協働
- ・ 世代間の交流によるまちづくり
- ・ 地域コミュニティはすべてにつながる  
地域の自立が市全体の自立につながる  
意識づくりのためのキッカケ  
リーダーの養成（リーダーづくり、意識づくり）  
ノウハウをもった団塊世代のリーダー化
- ・ 能力を持った人が活躍できる環境
- ・ 厳しい時代だからこそ変えられる
- ・ 今の時代を知った上で意識改革を図る。市民の声を拾い集める
- ・ 市民とともに汗を流すことが必要（空きビン集めなど）  
導入のキッカケを作るのは行政で  
クリーン作戦の定期的な実施  
できること、続けられること、地域ごとに
- ・ 子供の意見・発想      子どもの発想が役に立つ
- ・ 親が行うのは簡単。子どもに任せることの必要性
- ・ 子どもが自立するにはどうすればよいか  
親が考えなければいけない  
子どもの意見を聞き流してはいけない  
子どもが自分の子ども時代に自信をもてるように  
親の意識改革の必要性
- ・ 子どもたちの「つどいの場」（公民館などで地域の人と交流）  
地域にあったものをつくりあげる
- ・ まずはコミュニティ、次にNPO（「小さい」ことから「大きい」ことへ。足  
元からできる仕掛け）
- ・ お年寄りが生きがいをもって子どもたちに教える

- ・ 高齢者と子どもと一緒に活動する
- ・ 世代を超えた交流
- ・ 子どもが少ないという現実を考えた場合      学校
- ・ 学校は地域が一体となれる場所      子どもに任せるモデル校
- ・ 感性は積み重ね    5年・10年計画
- ・ 地域行事に参加する機会
  - ふるさとに帰りたいと思う気持ちへつながる
  - 教育委員会共催（後援）があれば参加者が増す
  - 小学生の参加者は多いが、中学生になると参加が減る（出番があれば参加者が増える）
- ・ 防犯体制      子どもたちの安全（コミュニティがあることで防げる）
- ・ 消防車の入らない狭い道が多い。火事が発生した場合が不安
- ・ 高齢者が交通事故の被害者から加害者へ
  - 防ぐためには、隣近所で免許返納等のアドバイスする
- ・ コミュニティがしっかりしていれば防ぐことができる

## 視点：ハードからソフトへ

健康づくり（予防・予病）

・心・体を動かす

スポーツ・・・子供から老人まで参加できるスポーツ

心のケア・・・周りとのコミュニケーション（コミュニティ、ふれあいサロ等）

高齢者・障害者にやさしいまちづくり

・高齢者が安心できるシステムづくり

・障害者スポーツの取り組み（仕組みづくり）

地域セーフティネットの充実

・ボランティアポイント制度の導入 など

## < 討論の内容 >

### 1．ハード的発想からの脱却

・モノを造れば「ヨシ」とするから、目に見えないもの（ソフト）への取り組みが必要

・健康づくり（自ら実践（ウォーキング、散歩、運動・・・）

### 2．健康づくり 予防・予病

（1）心身ともに体を動かす

・子供から老人まで参加できるスポーツ

・生涯を通じたイベント・スポーツづくり

・全市民で行う体力測定 など

（2）心のケア

・周りの人とのコミュニケーション（語り合う） ストレスの解消

・コミュニティが重要 社会参加を増やすシステムの構築

（町内の奉仕作業に参加 年齢制限は定めない、高齢でも元気な人は参加する）

・自分たちの地域は自分たちで守る

### 3．高齢者・障害者にやさしいまちづくり

（1）障害者スポーツの普及

・障害者がスポーツ大会に積極的に参加できる施策を・・・（鹿屋市からの参加少）

・障害者スポーツ施設の充実（鹿児島県の「ハートピア鹿児島」のようなもの）

・障害者が積極的に社会参加できるシステムの構築

（サポート体制、ボランティアの活用等）

（2）高齢者・障害者が元気なまちづくり

・高齢者・障害者にやさしい交通対策

利便性の高い駐車場（利用施設に近接、明確なサイン、ユニバーサルデザイン、リナシティの管理者意識の改革）

公共交通（バス等）の高齢者割引サービス

小型福祉バスの運行（細街路まで入れるバス）

シルバードライバー対策（免許返納後のサービス）

・独居老人対策

皆さん、特に高齢者は語り合いを求めている 語れば元気が出る、孤独感に陥らない

語り合いの機会・場をつくる 吾平のふれあいサロン  
(65歳以上参加可能)

独居老人のサポート 地域単位で！！（集落、町内会単位で……）

・老人検診対策

高齢者が安心できるシステムづくり

（機械的、文字が小さい… もっと分かりやすい表現で！！）

・医療体制の見直し

小児科医師不足などで、診て欲しいときに診てもらえない

かかりつけでないと診てもらえない

4 . 安全・安心なまちづくり（将来への不安解消）

・地域セーフティネットの充実

（ボランティアポイントを導入し、ポイントを有効に活用できるシステム）

・ともに支えあい、助け合う精神の醸成（共助の精神）

< 討論の内容 >

- ・ 生産～加工～販売までを域内で  
地域の良いものが他地域のブランドとして販売されている  
現在、原料を鹿屋市から提供し消費地で加工・販売しているが、加工・出荷も域内で行うべき。雇用の拡大にもつながる  
養豚についても、外から飼料を購入し出荷は飼料会社に委ねている（域内では飼育だけ）。域内ですべてまかなうようにしていくべき。
- ・ 地域の「食」を来訪者に伝えること  
来訪者から「黒豚をどこで食べられるのか」と聞かれても答えられない。すぐに答えられるようにすべき  
地域の人食へののこだわり（本格志向）をアピールする（焼酎の本来の飲み方など）
- ・ 地域資源をいかに活用するかが大切  
地域資源は豊富である（地域ポテンシャルは高い）  
既存ストックをいかに活用するかが大切  
（リナシティかのや、ばら園など）  
観光面で有効活用する。観光業者とタイアップもしていったらどうか
- ・ 「リナシティかのや」の印象  
遊べるところがあるかと思って行ってみたがなかった。若者は魅力を感じない。何度も行きたいと感じない。  
一階はオープンスペースにすべきだったと思う  
エントランスがわかりにくい  
女性が服を買ったり雑貨を買ったりする場所がない  
回遊しながら買い物できない状況。回遊性は必要（一度外へ出ないと店舗間を移動できない構造）
- ・ まちづくりのあり方  
「リナシティかのや」など、すでに造ってしまった施設等はずぶず訳にはいかない。いかに利活用するかを考えるべき  
その一方で、従来型の箱物づくりを反省していくことが必要  
（これまでは、行政が補助金等を使って箱物をつくってしまい、その後で「どう使うべきか」と議論することが多かった。今後はこのような従来型の箱物づくりはやめるべき）  
従来の計画・整備は、行政内部で勝手に決め進めてきたものが多い。  
市民とともに考えるべき。市民の知恵を活用すべき  
市民が意見を言う場が必要。意見を聴取する仕組みづくりが必要。  
政策の一貫性をもってほしい。また、目標や計画は立てただけではダメである。着実に実行していくことが大切  
地域、市民が一体となった地域づくり、まちづくりを進めるべき  
一人ひとりができることをやっていくことが必要

・既存ストックの有効活用が大切

中央地区に公園が多い。その上、打馬・下祓川地区土地区画整理事業地区にも公園ができるだろう。中央地区への一極集中はいかなものか。地域バランスに欠けているのではないか。

産業廃棄物処理の問題、交通アクセスの問題は、企業の誘致を進める上で問題となる

「自衛隊基地」を使うべき（福岡方面へのアクセス）

国道 504 号より、海岸沿いの景観が楽しめる国道 220 号の整備が必要である。観光ルートとしてもよい

教育施設（学校）の老朽化が進んでいる

小中統合など学校再編を検討していくべきである。給食センターの設置・統合も進めるべき（他自治体よりも遅れている。）

既存ストックの有効活用を図るべき

（産業振興センターを新設したのはなぜか（商工会議所にも同機能がある）、新たな箱物は必要なかったのではないか（空きビル・部屋もある）

・市民とともに知恵を出し合い、真に必要な基盤整備を進めることが重要  
（重点的投資）

市民にとって何が一番大切か、何が必要かを考え、重点的に投資することが必要。適正な優先順位でお金を投資する。

従来型の「箱物ありき」の施策から脱却（市民とともに、意見を聞きながら実施すべき。「モノづくり」より「ヒトづくり」）

公共下水道の接続率はどのような状況か。低いのであれば拡大整備より利用拡大を図るべき。

<重点的取り組み>

- ・ ボランティア活動を教育に取り入れるべき、地域との繋がりを知るきっかけづくりのために必要  
例) 学生時代の川の清掃活動を行った体験があるものの、現在は地域に出るきっかけがなく、地域のために何をしたらよいか分からない。ボランティア活動など行政が企画してくれたら活動に参加しやすい。
- ・ 市全体の運動会を毎年地域持ち回りで行うイベントもよい。
- ・ 自立心を養う教育(まちづくりに参加できる心を育む)
- ・ 地域の伝統文化と産業の活性化  
例) 宮大工の研修を熊本工高で行うことにより、伝統技術の伝承と林業の活性化に繋がっていく。
- ・ 家庭における教育力(家庭教育)  
幼児教育(基本的なしつけ)の重要性
- ・ 大人が見本を示す。
- ・ 子供たち同士が交流できる活動
- ・ 青少年育成 地域の役割(あいさつは大切)  
地域の教育力の向上
- ・ 伝統行事への参加(地域コミュニティの活発化) 異年齢交流の促進  
心の豊かさを育む
- ・ 郷土に誇りを持てる教育
- ・ 学校教育を学校だけに任さず、家庭・地域・学校の連携が大切
- ・ 少子化・高齢化・過疎化対策  
少子化 児童・生徒数の確保、子供を産みやすい・育てやすい環境づくり  
過疎化 山村留学・特認校による交流
- ・ 少年犯罪・自殺が社会問題となっているが、命の大切さがわかっていない。  
親に対する感謝の気持ちがなくなっているのではないか。  
体験学習(職場、自然)
- ・ 道徳教育(徳育)  
人格形成  
コミュニケーション力  
鹿屋独自の取り組み(自然の中での教育イベント)ができないか、徳育は子供・親・大人にとっても大切。
- ・ 子供たちが交流できるイベント(ゲームが好きな子どもは集中力が不足)
- ・ 食育の重要性  
健全な体、心を育てる、生きる原点にもどることができる。  
例) 米づくりを考えていくと、水田の環境づくり  
川の水質保全に繋がっていく
- ・ 環境教育  
鹿屋市独自の取り組みができないか。

- ・ 子供たちが自由に遊べる場・居場所づくりが大切ということで国も放課後プランを打ち出している。親・地域が見守り自由に遊ばせることができるとうい。
- ・ 英語教育の充実  
外国の言葉を知るとは、文化を知ること。  
近い将来、外国の人と共に生きる社会になることが予想され、日本語以外の言葉でコミュニケーションを図る機会が増大するだろう。  
英語力を高めるために先生の研修制度も必要。
- ・ 空き教室の有効利用 地域への開放 イベントや世代間交流の場  
地域の教育の場として公民館が利用されているが、公民館だけでは不足している。  
空き教室の活用により地域活動が活発化している成功例は多い。
- ・ 国語力の重要性  
国語を理解する力がないと、英語の力もつかない。理解する力は、人間性の育成も不可欠。

#### <委員からの資料請求>

- ・ 児童、生徒数の推移（過去5年間）
- ・ 出生率の推移（過去5年間）
- ・ 児童1人当たりの医療費の状況（0歳～小学校入学前まで）  
（薩摩川内市、霧島市の状況もあわせて）
- ・ 放課後児童クラブの待機児童数

< 将来像（重点的取り組み） >

- ・ 地域経済の（既存商店街等）の活性化が重要
- ・ 域外から見た（専門家等）による公開講座の実施 意識改革
- ・ 安全に住めるまちづくり 軽視  
（欠けている点）

- ・ 一次産業 安心・安全（健康）

医療費の増にも反映（病気）

- ・ 災害（シラス土壌、無機質農薬の投下等） = 農林業の衰退・山林の荒廃
- ・ かつての知識（棚田等）
- ・ その他の分野にも適用できる（米軍再編問題等）

産業の発展（環境保全型産業）

現状 補助投資

- ・ 自ら行うことが必要
- ・ 補助金漬け  
自立できない体質  
効率のみ追求（楽をしたい）、兼業化の弊害
- ・ 市場が活性化しない（大型店舗）
- ・ 新幹線効果（スポーツ交流、観光）
- ・ 意識改革  
行政・議会・学校（リーダー） 住民 方法論  
実際の事業に自ら取り組む
  - ・ 遊休地を活用した農業の推進
  - ・ 農地の集約（土地利用） 産業振興
  - ・ いろいろな分野における先駆者を育成する環境の整備が必要
- ・ 1つのキャッチフレーズ（CI戦略）
- ・ まず、地産地消 域外へ

- ・ 安全（安心・健康）なまち

行政（公務員・議会）等の意識改革

- ・ 行政のリーダーシップ（技術）
- ・ ポイント制（地域通貨）
- ・ ISO14000の取得 環境
- ・ 安全 - 中心部 コミュニティ、危機的管理体制、防災無線

- 周辺部 高齢化 交通手段

- ・ 遊休地の活用  
産業振興へ = 安全

受け入れ体制

- 新規就業支援 ・ 交通 ・ 環境保全型
- ・ 基盤整備不足（行政）
- ・ モデルケースとしての取り組み、まちづくり全般